

令和5年度 日向市立日知屋小学校 自己評価書

(4段階評価) 4・・・「そう思う」 3・・・「ややそう思う」 2・・・「あまりそう思わない」 1・・・「そう思わない」

令和5年度 学校のスローガン

やさしい子、がんばる子、やりぬく子、笑顔かがやく日知屋小

観点	評価項目	自己評定 (4段階評価)				結果の考察・分析及び改善策等
		児童	保護者	職員	総合	
学校スローガン	笑顔かがやく学校生活	3.6	3.5	3.5	3.5	○目標とする3.5以上を3者ともクリアできた。「学校が楽しい」と感じている児童自身やその様子を見ての評価だと考えられる。また、HPでの情報発信により、学校での楽しそうな様子が伝わっていることも要因であろう。次年度もHPで積極的発信を行っていきたい。
学力向上 (知育)	基礎基本を大切にした分かる授業の実現	3.5	3.4	3.7	3.1	○授業に関する評価は概ね良好であった。主題研究のテーマ「対話活動」をもとに、職員の日々の創意工夫が生かされた結果だと考えられる。また、学力調査の結果分析とともに、調査に向かう心構えについても高めていくような手立てが求められる。
	学習意欲が高まる(楽しく学ぶ)授業	3.4	3.4	3.7		○家庭学習は、習慣化できている児童とそうでない児童の2極化が見られる。引き続き家庭への協力を求めながら、継続して指導していく必要がある。
	家庭学習の習慣化	3.3	3.0	2.9		○読書冊数は児童一人平均60冊(昨年度65.5)であった。保護者や職員の評価によると、家庭ではあまり読んでいないことが伺える。富中校区で進めているノーメディアタイムの取組も活用しながら、読書の推進を図っていきたい。
	読書指導の充実	2.9	2.4	2.7		○宮日新聞や夕刊ティリーに自分の作品が掲載され、また校内でも掲示されることで、自信と意欲が高まっていく姿が見られた。次年度も継続して取り組んでいきたい。
	新聞投稿や作品募集への積極的参加	2.4	2.3	3.5		
心の教育の充実 (德育)	児童のよさやがんばりを認め、自己肯定感を高める指導の充実	3.6	3.3	3.6	3.5	○先生から自分の頑張りを認められていると感じている児童が多い。今後も一人一人を大切にし、よさを認めながら指導にあたっていきたい。
	気持ちの良いあいさつや返事	3.3	3.3	3.7		○あいさつについては徐々に改善が見られてきたが、まだ十分とは言えない。登下校中の見守り隊の方々へのあいさつも含め、更なる充実を図って行く必要がある。
	規範意識(交通ルール・公共のマナー・学校のきまり等)の醸成	3.7	3.6	3.7		○公園の使い方や自転車の乗り方等、まだ指導が必要な場面も見られる。道徳や学級活動において規範意識を高める授業を今後とも充実させたい。
	教育相談の充実			3.3		○教育相談で一人一人の不安や悩みを把握するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど外部機関とも連携を図ることができた。
健康・安全教育の充実 (体育)	健康で安全な生活を送るための指導と対策の充実	3.6	3.5	3.6	3.6	○新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策は、流行の状況を勘案しながら適切に対策を講じることができた。
	外遊びや運動を通した体力向上	3.5	3.3	3.5		○スポーツテストの結果から考えると十分とは言えない。スクールスポーツプランを作成し、特に高めたい運動能力の向上を目指して授業等で取り組んでいる。さらに運動したくなる環境づくりを目指すとともに、昼休みの外遊びをさらに奨励したい。
	食育とアレルギー対応の充実			3.7		
学校・家庭・地域連携	ふるさと学習の充実		3.2	3.3	3.4	○ふるさと学習については、保護者、職員とも評価が低い。日向市の人材や地域素材をまだ十分に活用できていないという思いの表れだと考えられる。学級通信や学校Webページでも実績をアピールするとともにふるさと学習の充実を図っていきたい。
	HP、通信、学校便り等による情報の積極的発信		3.5	3.7		○学校ホームページの閲覧数が68万を超えた。今後も内容の充実はもちろん、ホームページのQRコードを来校者や地域に積極的に知らせることで、閲覧数の向上につなげていきたい。
	地域の行事や活動への積極的参加	2.9	3.2			
	家庭での会話	3.5	3.5			
グランドデザインに沿った教育活動	保護者や地域へのグランドデザイン理解促進		2.7	3.4	3.1	○本年度も全体的に評価が低い。保護者や地域に対して理解を図るための効果的な取組ができないと言える。職員の理解もやはり不十分なので、職員の理解促進から進めていく必要がある。
	小中一貫教育の取組の充実		3.1	3.2		○小中一貫教育の取組としては、ノーメディアタイムや地区ごとに一斉に行われた防災訓練など、工夫して取り組むことができた。